

体験者 & 専門家に聞いた!!

親の家を片づける

ここがお悩み、これが正解!

親家片のキホン編

片づけをスムーズに進めるポイントは?
親家片をひとりで抱え込まないで

そもそも親家片って どうして大変なんですか?

親家片って、どんなふうに
進めれば?

親家片メンタル編

どうして心がこんなに
疲れてしまうの?

●スッキリ生活アドバイザー

宮城美智子さんがアドバイス



主役は親が 合言葉

プロの親家片編



何カ月もかかった親家片が1日で終わる!? サービスを実際に体験!

ヤマトホームコンビニエンスが行う 親の家の片づけ

ひとり暮らしの一軒家から娘のマンションへ



仏壇 貴重品 写真

これでみんな困ってる「片づけにくいもの」はこう処分!

親家片体験談編

●住まい方アドバイザー

近藤典子さんの



親の家の片づけ

マンガで読む

どうなの? どうする?

親家片問題

体験談番外編

新聞記者が見た

親家片のリアル

親家片サポート編

いざというときの
ために知っておきたい
法律や手続き

弁護士・司法書士・
行政書士・税理士
など

各専門家が 解説!

Column

身近な事例をあげて
アドバイス
弁護士・澤田有紀の
親家片法律
コーナー

親の家を片づける
親家片
O-YA-KATA

主婦の友生活シリーズ

これからの相続には世代間の意見調整が必要不可欠！

円満な相続に取り組み だれもが幸せになる相続プランを提案して30年



相続は、残す側と受け取る側のコミュニケーションが大切です。日頃から話し合いが進んでいけば、円滑にまとまりますが、そうでない場合に問題が表面化します。高齢化社会を迎え、たくさんの方々が相続の問題でお悩みを抱えています。30年前から相続をめぐる問題に取り組んできた税理士法人麻布パートナーズは、これまでの経験と、きめの細かなヒアリングにより、世代間の意見調整も含めた、長期的視点に立った相続プランを提案しています。

米国人監査の第一線で 先進の会計理論を学ぶ

港区六本木に潇洒なオフィスを構える、税理士法人麻布パートナーズ。同法人は、30年ほど前から「相続」をめぐる相談への対応に力を入れてきたことでも知られています。

総括代表の小見山満さんは、公認会計士の資格を持ち、日米の大手会計事務所の人監査の第一線で働いたキャリアの持ち主。「父が東京で長く会計事務所を経営してきたこともあり、早くから、いずれはその仕事を継ごうと考えていました。ならば少しでも早く会計業務を習得したい。そう考えたことが、監査先進国である米国に渡った第一の理由です」と小見山さんは話します。

30年前に相続問題を予言し 現在は相続をテーマに活躍中

帰国後は実務のかたわら、多くの著書を

渡米から2年後に米国公認会計士登録を終えてから、その努力は実を結びました。専用の執務室と秘書を持ち、多くの企業の監査業務を担当することになります。しかし、31歳でその地位を投げ打ち帰国。新たに自身の公認会計士事務所を立ち上げ、お父様の会計事務所に合流することに。それが今日の麻布パートナーズの原点です。

「米国では4年にわたり実務を担当し、企業会計に関する一通りを学ぶことができた。そろそろ日本で税務会計を学ぶべき時期だと判断したことが帰国の理由です」と小見山さんは当時を振り返ります。

発表してきた小見山さん。その最初の一冊になったのは、実は「相続」をテーマにした本「相続プラン」でした。その発表は今年から30年ほど前までさかのぼります。「当時は戦後40年といわれた時代。軍隊から復員し20代で起業した経営者が70代を迎え、バトンタッチの時期にさしかかっています。実際、我々の事務所にも、相続に関するご相談に訪れる方は年々増えていました」

その後の日本社会は、まさに予想通りの展開を見せました。拍車をかけたのが、バブル景気による地価の高騰でした。

企業家だけでなく、あらゆる人にとって、相続が大きな問題として浮上。当時、銀行などの金融機関の紹介で次々に訪れる相談者に対し、小見山さんが提唱したのは「まずはプランを立てる」ことでした。



港区六本木にある税理士法人麻布パートナーズは、税務会計の専門家として「相続」をめぐる相談への対応に力を入れている。

相続ドック、相続検診を通し 問題への対策を立案・実行

円満な相続は「財産を子供たちにどういう形で相続させるかを考えることから始まります」と指摘する小見山さん。「そのためには、現状の問題点の把握が重要。相続の相談にみえられた方には、まず「相続検診」を受けていただいています。医療にたとえるなら、その役割は問題点を総合的に検診する人間ドック。ドック検診は無料で、もし問題がなければこれまで同様の生活を続けていただければいいです」

問題が見つければ、次に「要因分析」のステップへと進みます。問診を中心に行うこの分析は、内科的アプローチに相当します。ここからは、税制だけでなく民法までも視野に入れ、どこに問題があり、どういう対策が可能かを考えていくことになります。

最終的には、具体的な節税対策の立案、遺言書作成、相続人との対話、納税資金捻出などのステップへと進みます。相続人との対話に際しては、事務所スタッフが立会い、より建設的な結論に至るよう導きます。「これらは、いわば外科的アプローチ。要因分析を通して見えてきた状況をご説明した上で、外科的アプローチに進むか否かをご判断いただいています」

麻布パートナーズが目指すのは、全員が幸せになる円満なバトンタッチの実現です。「残す側は、すべてをそのまま継承して欲しいと考えることが一般的です。しかし、受け取る側には、別の人生設計や価値観があります。そのギャップが相続に関する問題を複雑にしています。その間に立ち、相談者とご家族が幸せに生きていくためのお手伝いをする。それが我々のスタンスです」

資産や事業を子供へバトンタッチすることを考えはじめると、心配で夜も眠れなくなる

という方は少なくありません。そういう方に対し、小見山さんは「人生を楽しみ、長生きすることが一番の対策です」と提案しています。「より効果的な節税対策を行ったり、納税資金の確保に取り組むには時間が必要ですが、また、お子様同士の争いがないスムーズな財産分与を実現するには、子供たちとの話し合いの場を数多く設け、互いの思いを相手に伝えよう努力が必要です。もちろんスムーズな事業継承の準備に、時間が必要になることはいうまでもありません。つまり、長生きして時間を作ることこそが最大の相続対策なのです」

バトンを渡す側にとっては、旅行やゴルフなどの趣味を積極的に楽しみ、気分転換を図ることが円満な相続の一番の対策といえそうです。

また、近年、海外に不動産を持つ日本人が増えたこともあり、国際的な相続問題の事実が増えています。例えば、海外の別荘

などの不動産を相続する場合には、米国では原則として、検認裁判所と呼ばれる裁判所によるプロバート（Probate：検認）手続きを経なければなりません。「ただし有効な遺言書の有無、承継者（Beneficiary）の指定、生前信託（Living Trust）の設定などがあれば、その英訳を作成するなど、スムーズな相続を実現することが可能です。海外資産の相続では、こうした知識の有無によって、掛かるお金や時間が大きく違ってきます」

国内の税制に精通し、海外での実務経験を持つリーダーに率いられた税理士法人だからこそ対応可能なことは、まだまだありません。

相続に関して、少しでも不安のある方はすぐに専門家の検診を受けること、そして相続を受ける側は、親の気持ちを理解することが円満なバトンタッチにつながる。小見山さんはアドバイスしてくれました。



税理士法人麻布パートナーズ
総括代表
小見山満さん

相続検診から対策実行までの流れ



麻布パートナーズでは、相続の問題を発見・解決する方法を医療的手法にたとえている。

円満な相続（バトンタッチ）に必要な4つのテーマ



小見山さんは、財産を残す側が長生きをし、人生を楽しむことが相続対策につながると話す。

Profile

税理士法人麻布パートナーズ
〒106-0032 東京都港区六本木3-6-9 K2ビル
TEL：03-6697-7000
URL：http://www.komiyama-cpa.com
お問い合わせ先
info@komiyama-cpa.com